

2年生 こども保育コース対象（体 育 Ⅲ）

ティーチングポートフォリオ

佐賀女子短期大学

こども未来学科

氏 名 松本 勇治

1. 教育の責任

この科目は、保育表現技術認定基礎資格(本学認定)を取得するための必修科目として開講され、本学科の「保育者としての専門的知識や実践的技能を習得し、様々な側面からこどもを理解し、国際・地域社会の今日的なニーズに対応できる人」という学習成果と関連している。

また、学習成果の評価項目としての⑦「保育内容についての専門知識を持っている」の部分と特に関連している。

2. 教育の実施における理念

体育Ⅲは、保育表現技術認定資格(本学認定)の資格必修科目である。

保育表現ユニットは、保育に欠かせない表現力である音楽や身体表現、造形などのそれぞれの技術と人間的魅力を深め、さらに総合的な表現技術を高めて保育の力を身に付けることを目的としている。

3. 教育の方法

展開時期は2年次の後期となる。本講義の到達目標は①子ども達と身体活動を通して関わるができる実践力を身につける。②子どもの表現活動を適切に指導できる実技能力・態度を身に付けるとしている。

授業実施上の工夫としては、総合表現のテーマ設定や内容、配役や小道具の制作について、学生間でのミーティングを通して、学生が主体的に取り組めるようにしている。後半は、実際に保育現場へ出向き、子ども達の前で公演し、振り返りを通して実践力が身に付くように工夫している。

4. 教育の成果

授業評価アンケートの結果について【受講者10名】

「この授業の到達目標を十分に達成した」について

とても当てはまる	40%	2名
----------	-----	----

まあまあ当てはまる	60%	3名
-----------	-----	----

【回答者5名 回答率50%】

「この授業に対して、5段階で総合的に評価してください。(5が最も良い評価)」について

5点	17%	1名
4点	33%	2名
3点	33%	2名
2点	17%	1名

【回答者6名 回答率60%】

また、最終講義のレポートには、「みんなで意見を出し合い、作り上げることができた。」「こどもの興味を引くために、毎回考えながら公演を行うことができた。」「こどもの年齢に合わせた表現方法を学ぶことができた。」「就職してから、この授業で学んだことを活かしたい。」などの記載があり、保育表現ユニットの目標である「総合的な表現技術を高めて保育の力を身につける」ことや、本科目の目標である「子ども達と身体活動を通して関わるができる実践力を身につける」ことについて、学生は概ね獲得できたと思われる。

5. 目標

今年度は2名の教員に公演の様子を見学して頂いた。

授業見学後のミーティングでは、「保育士は表現力が大事なので、とても良い学びになっていると思う。」や「子どもたちもとても集中して見入っており、とても良い公演だった。手作りの小道具など、準備もよくできていた。」との意見を頂いた。

今後も学生の保育表現技術がより高まるように、保育表現ユニット関連科目である、音楽(声楽)Ⅲ、美術工芸Ⅲと連携を図りながら総合的な表現技術の向上を目指していきたい。また、授業の実施方法については、今年度同様、ディスカッションやグループワークを多く取り入れ、学生が主体的に学ぶ機会を確保していきたい。